

# 家畜衛生情報

香 川 県 畜 産 課  
 TEL(087)832-3426~8 FAX(087)806-0204  
 香川県東部家畜保健衛生所  
 TEL(087)898-1121 FAX(087)898-9558  
 香川県西部家畜保健衛生所  
 TEL(0877)62-0020 FAX(0877)62-3299

## 最近の高病原性鳥インフルエンザをめぐる情勢等について (平成28年度高病原性鳥インフルエンザ防疫対策強化推進会議から)

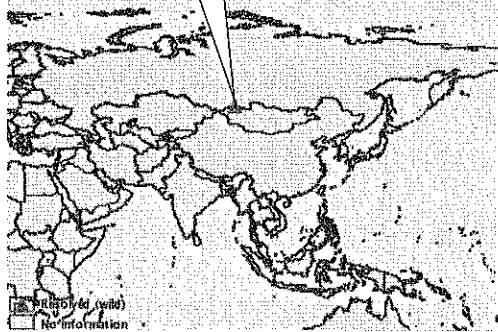
本年9月に農林水産省で開催された平成28年度高病原性鳥インフルエンザ防疫対策強化推進会議で、海外での鳥インフルエンザの発生状況と、防疫対応に関する最新の研究成果の発表がありましたので紹介します。

現在、数多くある鳥インフルエンザに関する情報の中で最も注目されているのが、今年6月にロシア連邦・トゥヴァ共和国の湖で、渡り鳥からH5亜型の鳥インフルエンザウイルスが検出されたというニュースです。この湖は、渡り鳥の営巣地となっており、ここに集まる渡り鳥たちは、アジアやヨーロッパ、アメリカ大陸へと移動していきます。過去2回(平成18年、22年)、この地域でH5亜型の鳥インフルエンザウイルスが検出された後、18か月以内に世界各地で高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されています。日本での平成19年(宮崎、岡山)と、平成22年(鳥根、宮崎等合計9県)の発生がこれにあたり、この地域の鳥インフルエンザウイルスが渡り鳥によって運ばれ、発生したと考えられています。

このため、現在、国内への鳥インフルエンザウイルスの侵入リスクは非常に高い状況にあるため、嚴重な注意が必要です。今後も十分注意し、飼養衛生管理基準遵守の徹底をお願いします。

また、鳥インフルエンザや口蹄疫発生時の汚染物品埋却方法に関する研究成果が報告されました。汚染物品の埋却は、予定地の地下水位が高い場合は埋却できないという問題点があります。これを解決するための2つの方法が発表されました。1つは「止水剤」を用いて地下水の湧出を防ぐ方法、もう1つは「盛土方式」で、穴を掘らずに地上に山を作り、そこに汚染物品を入れる方法です。本県も地下水位が高く、埋却困難な地域が多いと考えられます。今回発表された方法が実用化されれば、迅速な防疫対応に直結するため、今後のさらなる検証試験の結果が注目されています。

ここでH5亜型の鳥インフルエンザウイルスが検出されました。  
 (OIEホームページより)



### 疾病情報

## 家畜伝染病・伝染性疾病発生状況(近県)

疾病名	畜種	発生場所	発生時期	発生戸数	発生頭羽群数
ヨネ病(法定)	牛	兵庫県、鳥根県、徳島県、高知県	H28.6月~7月	5	5
牛白血病(届出)	牛	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、鳥根県 山口県、愛媛県、徳島県、香川県	H28.6月~8月	88	97
牛ウイルス性下痢粘膜炎(届出)	牛	兵庫県、広島県	H28.6月、8月	5	5
破傷風(届出)	牛	鳥根県、徳島県	H28.6月	2	3
ネオスポラ症(届出)	牛	広島県	H28.6月	1	1
豚丹毒(届出)	豚	兵庫県、岡山県、広島県、鳥取県、鳥根県 愛媛県、徳島県、高知県、香川県	H28.6月~8月	33	81
豚サルモネラ症(届出)	豚	広島県、愛媛県、高知県	H28.6月~8月	3	4
ロイコチトゾーン病(届出)	鶏	香川県	H28.7月	1	6
パロア病(届出)	蜜蜂	兵庫県	H28.6月	1	1
アカリダニ症(届出)	蜜蜂	鳥取県、鳥根県	H28.6月~7月	2	2

## 牛ボツリヌス症にご注意を

牛ボツリヌス症はボツリヌス菌が産生する強力な神経毒素により突然の起立不能、呼吸促拍、低体温などを呈し、その多くは急性経過で死亡する疾病です。本病は全国で散発しており、県内でも近年3年連続で複数の農家で発生しています。

また、この病気は冬期に多発する傾向があり、これからの季節は注意する必要があります。

### <原因>

- ① 菌を含むカラスなどの野生動物の糞や死体が混入した飼料の摂取
- ② 毒素で汚染された変敗サイレージの摂取

ボツリヌス菌の感染牛は糞便中に菌を排出することで周囲を汚染すること、本菌は環境中でも長期間生存すること、かつパコマ等の一般的な消毒薬が無効であることなどから、本病の対策は、侵入防止や発生予防が重要です。

ボツリヌス菌に有効な消毒薬

種類	用途	製剤名
次亜塩素酸ナトリウム	畜舎、器具	ビューラックス
塩素イソシアヌル酸塩	畜舎、器具、踏込槽	クレンテ、スミクロール
塩素系複合製剤	畜舎、器具、踏込槽	アンテックビルコンS
ヨード剤	畜舎、畜体、器具、手指	クリナップA、バイオシド30、ポロアップ16、リンドレス、ファインホール
アルデヒド製剤	畜舎、器具、踏込槽	グルタクリーン、グルターZ、エスカット

### <侵入防止・発生予防対策>

- ① 衛生管理の徹底（除糞、餌槽や水槽の清掃）
- ② 防鳥ネットの設置
- ③ 飼料の適正管理（小動物の死骸などの混入防止）
- ④ ワクチン接種
- ⑤ 濃厚飼料の多給防止など飼養管理の適正化

万が一発生した場合は、ワクチン接種は発症予防には大変有効ですが、感染や排菌は抑制できないため、発生農場では有効な薬剤による消毒等の長期にわたる対応が必要です。

もしも疑わしい症状がみられましたら家畜保健衛生所に御相談いただくとともに、日頃の飼養衛生管理の徹底をお願いします。

## 冬に向けて豚流行性下痢の発生に注意しましょう！

豚流行性下痢（PED）の主な症状は元気消失、食欲不振、嘔吐及び水様性下痢ですが、感染豚の日齢等により様々な症状を示します。このため、臨床症状のみで本病と判断することは困難です。国のPEDマニュアルでは、家畜の所有者が、農場内で次に示す症状のいずれかに該当する家畜を発見した場合には、直ちに家畜保健衛生所に通報し、指導を受けることになっています。

- ① 複数（周辺農場で本病が発生している場合には1頭）の繁殖母豚が分娩した哺乳豚のうち、半数以上が水様性下痢、嘔吐又は死亡
- ② 同一繁殖母豚が分娩した哺乳豚のうち、1頭以上が水様性下痢若しくは嘔吐又は死亡し、半日以内に同一腹の哺乳豚又は他の繁殖母豚が分娩した哺乳豚に同一症状が拡大
- ③ 同一飼養区画内で複数の繁殖豚又は肥育豚（離乳豚も含む）が、食欲不振、下痢（軟便から水様性）又は嘔吐

また、上記のいずれにも該当しない場合であっても、通常と異なる下痢、嘔吐、食欲不振、死亡等の症状が確認された場合には、家畜保健衛生所へ迅速に通報してください。

本病は主に糞便中に排出されたウイルスが直接的又は間接的に経口感染することで伝播します。したがって病原体の農場への侵入は、感染豚の導入、感染豚の糞便に汚染された人、車両及び物品の持込等によって起こると考えられています。このため、本病の対策としては、消毒など飼養衛生管理基準の遵守の徹底やワクチン接種により被害を軽減することが基本です。



- 農場・畜舎出入口での消毒
- 導入豚は2～4週間隔離観察
- 野生動物を農場に誘引しない
- ワクチンの接種
- 食品残さ利用飼料は適切に加熱処理

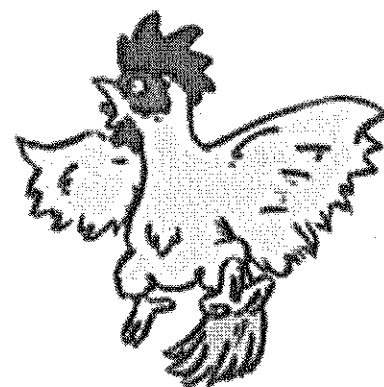


## 渡りのシーズンスタート 野鳥の侵入対策を (鳥インフルエンザと野生動物シンポジウムから)

まもなく立冬を迎え、冬の渡り鳥が本格的に飛来するシーズンとなりました。これまで数々の報告で渡り鳥が高病原性鳥インフルエンザウイルスなどの病原体を運んでいるのは間違いないとされています。そこで、渡り鳥を含め野鳥の鶏舎への侵入を防ぐ対策がこの時期は特に重要です。

ときどき鶏舎の周辺ではスズメやカラスといった野鳥を見かけることがあります。しかし、皆さんは実際にどんな鳥がやってきてどんな行動をとっているかなどご存知でしょうか？ 今回出席したシンポジウムで、その調査結果が報告されたのでここで簡単にご紹介します。調査は、鹿児島県や宮崎県など4県8市で2013年から2年間にわたって複数の養鶏場とその周辺で行われました。その結果、58種の野鳥が観察されました。中でも出現頻度が高く、鶏舎と接触があり、滞在時間も長いのは、スズメ・ヒヨドリ・ハクセキレイ・ツグミ・シロハラ・ジョウビタキなどでした。また、これらを含め農場内で見られた野鳥のうち、4割を超える数が鶏舎内に入り込むなど鶏舎に接触していることも確認されました。これまで何度もお願いしてきたところですが、この調査結果を踏まえて改めて野鳥対策をお願いします。ポイントは、防鳥ネットなどの点検・修理、鶏舎の消毒です。具体的には下の表をチェック！（もちろん引き続き消毒の励行もお願いします！）。

まず鶏舎に近づかないように・・・
<input checked="" type="checkbox"/> 餌となる虫が発生しないよう草刈りしていますか？
<input checked="" type="checkbox"/> 場内に水飲み場ができないように排水できていますか？
鶏舎への侵入を防ぐために・・・
<input checked="" type="checkbox"/> 換気扇・換気口の金網は破損していませんか？
<input checked="" type="checkbox"/> 畜舎の外壁や屋根は修理ヶ所がないか点検していますか？
<input checked="" type="checkbox"/> 防鳥ネットの状態は良いですか？
破れていたり地面との隙間があつたりしていませんか？



## 平成28年度香川県家畜防疫演習について

近隣諸国で口蹄疫や鳥インフルエンザなどの法定伝染病の発生が続いています。

香川県では、有事の際に素早く防疫作業に取り掛かれるよう、毎年、防疫演習を行っています。これまでは鳥インフルエンザを想定した演習が中心でしたが、今年は更に口蹄疫が発生した場合でもスムーズに作業ができるように訓練を実施しました。伝染病発生時に、畜産関係の車両を消毒する演習を、市の職員や香川県農協の協力のもと行いました。

毎年、防疫演習の質を充実させて万が一の事態に備えております。

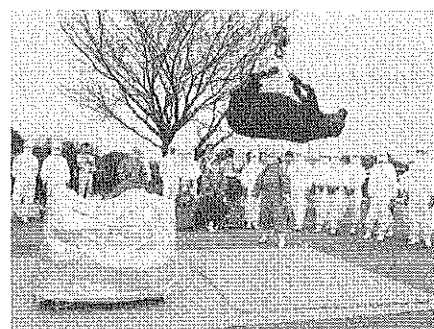
皆様も消毒の徹底や家畜の健康管理などの対策を怠ることなく、伝染病の発生予防に備えてください。



三木町職員・長尾土木事務所職員による消毒ポイントでの車両消毒演習



高所での捕鳥訓練



防疫バッグを利用した処分家畜の収容・輸送訓練

## 新人だより

はじめまして、畜産課衛生環境グループの久保貴士です。職務経験者・UJIターン型で採用され、平成28年度より香川県職員として働くことになりました。生まれは香川県ですが、大学進学により県外へ出たため、約20年ぶりに戻ってきたこととなります。

香川県に戻ってくるまでは、徳島県で同じく県職員として働いていました。家畜保健衛生所職員として、三好町・池田町に代表される険しい山間部ばかりの西部地域で長い期間仕事をしていたため、讃岐富士を代表とするなだらかながらも風景にマッチし、気軽に登山をすることもできる香川の山々に心癒されております。

また、趣味はロードバイクによるロングライドですが、その楽しみの一つであるご当地グルメを食べ巡るツアーを企画する際も、うどんという切り札があり、ルート設定に事欠かないことも個人的に非常に魅力を感じております。徳島県にいたときも、実際にうどん食巡りを楽しんでおりました。また、毎年サイクリングイベントが開催されている小豆島といった風光明媚な島も多くあり、機会を見てサイクリングに行ってみたいと考えております。

今後も仕事に家庭に趣味に全力で取り組み、みなさまとともに香川県の畜産を盛り上げるよう、努力していききたいと思います。



### <お知らせ>

#### ○第9回香川県畜産フェア

11月26日(土)、27日(日) サンメッセ香川 大展示場A

「オリーブ」の恵みで育まれた香川生まれのおいしい農水畜産物が出品されます。

※26日は香川県畜産共進会の知事賞授与式、讃岐牛・オリーブ牛振興会枝肉共励会の最優秀賞表彰式もあります。

#### ○第80回香川県畜産共進会の日程

開催月日	内 容	開催場所
11月4日(金)、5日(土)	肉豚審査	香川県畜産公社
11月9日(水)、10日(木)	乳用牛、肉用種牛審査、表彰	香川県家畜市場
11月26日(土)	知事賞授与式	サンメッセ香川
11月29日(火)、12月2日(金)	肉牛審査、表彰	坂出食肉地方卸売市場